

拠点形成概要及び採択理由

機 関 名	東京大学、ヘイスティングス・センター、国立衛生研究所、ペンシルヴァニア大学、ケース・ウェスタン・リザーブ大学、オックスフォード大学、ベルゲン大学、モナシュ大学、シンガポール国立大学
拠点のプログラム名称	次世代型生命・医療倫理の教育研究拠点創成 —学際的・国際的ネットワークの構築—
中核となる専攻等名	医学系研究科健康科学・看護学専攻
事業推進担当者	(拠点リーダー) 赤林 朗 教授 外 26名

[拠点形成の目的]

今日のグローバル化された現代社会においては、ライフサイエンス・医療技術の発展が社会に与える影響はますます広範かつ多大なものとなっており、クローン技術、ES・iPS細胞等を用いた再生医療、脳科学、ヒトゲノム研究や、急増する海外共同治験などの国際的共同研究、また終末期・生殖補助医療などによって次々と生み出される**倫理的・法的・社会的諸問題(ELSI問題:ethical, legal, social implications)**への対応は喫緊の課題である。

こうした課題に対応するには、ライフサイエンスや医療の社会的規制のための**シンクタンクとしての研究拠点**と、適切な研究審査のできる倫理委員や医療現場で起きる倫理問題に対処できる**人材(国内では約5万人程度)とその指導者**の育成が急務である。生命・医療倫理学は、学際的な取り組みを通して、ライフサイエンスや医療技術がもたらす倫理的・法的・社会的課題に取り組む学問である。しかし、これまでの日本の生命・医療倫理学は、人文系においては欧米の文献を紹介する座学が中心であり、医学系では実践的だが体系性に欠ける臨床倫理や研究倫理が中心であったため、十分にこうした現代的な課題にこたえられてこなかった。さらに、以上のような課題に対応できる次世代の人材もほとんど輩出してこなかった。

以上の現状認識を踏まえ、本教育研究拠点は、ライフサイエンス・医療技術が日本社会および国際社会にもたらす倫理的・法的・社会的諸問題に関して学際的に研究すると共に、国外の研究拠点と連携することで、質の高い国際ネットワークを形成する。そして、政策、研究および臨床という実践の場に適した教育プログラムを提供する。これらにより、国際的な場で今後リーダーシップを発揮して活躍することのできる高度な人材を養成し、**次世代の国際標準となる生命・医療倫理の教育・研究拠点を創成する**。

[拠点形成計画の概要]

(1) **国際ネットワークの構築(GABEX: Global Alliance of Biomedical Ethics Centersプロジェクト)**

米国ヘイスティングス・センター、国立衛生研究所(NIH)、ペンシルヴァニア大学、ケース・ウェスタン・リザーブ大学、英国のオックスフォード大学、ノルウェー王国立ベルゲン大学、豪国のモナシュ大学、シンガポール国立大学など、世界の主要な生命・医療倫理研究拠点と連携することにより、若手研究者を中心とした国際的な人材の流動化を促し、研究・教育の国際標準化を図る(**国際フェロシップ制度の確立**)。

(2) **学際的な生命・医療倫理教育プログラムの作成**: 自然・人文・社会科学系の博士課程学生およびポスドクを対象に、総合大学の強みを活かした学際的な教育プログラムを作成・実施する。

(3) **政策立案に資するシンクタンクの機能の構築**: 国内外の研究者からなる問題解決指向型プロジェクトチームを複数発足することにより、倫理指針案の策定、政策クイック・レスポンス等の実践を行う。

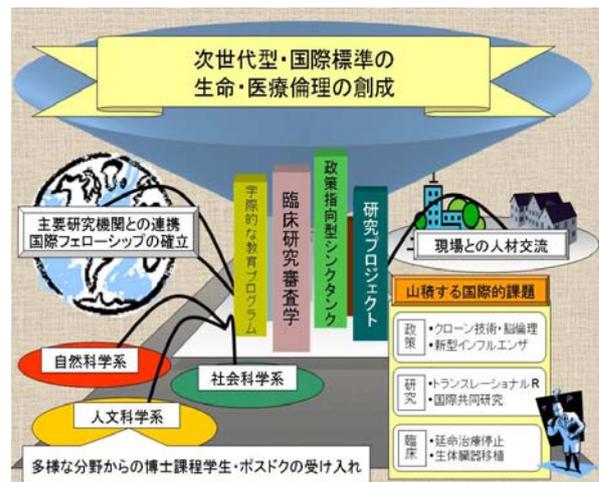
(4) **臨床研究審査学の確立**: 国際共同研究の研究審査、トランスレーショナル・リサーチ研究審査等、研究審査方法論の確立と、NPO設立というキャリアパスを視野にいたった人材養成プログラムの策定を行う。

(5) **倫理コンサルテーション学の確立**: 医療機関に存在する患者相談・臨床倫理センターのスタッフ養成を目的としたシャドウイング等の効果的手法による教育プログラムの策定を行う。

(6) **国内外へのアウトリーチ**: 日本語・英語による機関誌や定期学術刊行物による研究成果の公表、ホームページを通じた研究成果・政策クイック・レスポンスの公表を行う。

(7) **リファレンス・センター**: 生命・医療倫理関連領域の国内最大となるライブラリーの開設と運営を行う。

(8) **次世代型の国際標準の生命・医療倫理学創成**: 上記活動により、日本および国外の生命・医療倫理の特徴を様々な学問領域の視点から解明し、理論的研究と実証的研究の統合を図ることにより、国際標準となりうるファクターを抽出する。以上により、次世代型の国際標準の生命・医療倫理学を創成・発信する。



機 関 名	東京大学、ヘイスティンクス・センター、国立衛生研究所、ペンシルヴァニア大学、ケース・ウェスタン・リザーブ大学、オックスフォード大学、ベルゲン大学、モナシュ大学、シンガポール国立大学
拠点のプログラム名称	次世代型生命・医療倫理の教育研究拠点創成 —学際的・国際的ネットワークの構築—
<p data-bbox="180 331 325 360">〔採択理由〕</p> <p data-bbox="164 405 1430 566">国内における生命・医療倫理の確立とその発展は、社会が強く要望しているものであり、生命・医療倫理分野における人材育成の社会的ニーズは、今後ますます高まると思われ、本拠点形成計画は時宜を得たものであり、評価できる。また、各事業推進担当者の実績に基いてよく検討された計画であり、具体的な学際的、国際的連携の道筋が示されており、評価できる。</p> <p data-bbox="164 577 1430 739">人材育成面においては、人材育成目的が明確であり、総合大学の利点を生かした総合的な教育システムを提案しており、各種プログラムは体系化され、プロジェクト実施後の成果も期待でき、評価できる。今後、育成される人材のキャリアパスの確保等について、更なる工夫・検討が望まれる。</p> <p data-bbox="164 750 1430 824">研究活動面においては、質の高い研究成果を有し、国際的なネットワークも形成されており、研究連携の実効性も期待でき、評価できる。</p>	